

日本臨床検査医学会 2019年度 第2回理事会 議事録

日 時：2019年7月12日（金）15：00～18：00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
宮地勇人、木村 聡、古田 耕、大西宏明、柴田綾子、藤井 聡、東田修二、田中靖人 各理事
福武勝幸 監事 各監事（14名）

欠席：メ谷直人、松尾収二、吉田 博、長沢光章、下 正宗、萱場広之、小柴賢洋、通山 薫、松永 彰 各理事
高木 康 監事（10名）

I 理事長挨拶（矢富 裕 理事長）

開会に先立ち、名誉会員の山中學先生（東京大学元教授 享年 92 歳：2019/4/27）の逝去を悼み黙祷がなされた。その後、矢富裕理事長から挨拶があり理事会の議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（東條尚子 庶務理事、吉田 博 担当理事欠席のため）

2019年度学術推進化プロジェクト課題について、18課題の応募があり3課題の候補を委員会で選考したこと、2016・2017年度のプロジェクト課題の最終報告がなされたこと、第66回学術集会会期中に開催することが報告された。

2) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

2019年6月12日に学会事務局において開催し、次項について協議したことが報告された。

・臨床病理誌に関するアンケートを評議員対象に実施した結果を検討し、次のとおりで理事会に報告提案することとなった。

①英文誌名「Laboratory Medicine International」

②和文誌名「日本臨床検査医学会雑誌」または「日本臨床検査医学会誌」

③和文誌サイズ：A4

- ・優秀論文賞受賞候補3編を選定した。
- ・日本医学会主催の研究倫理講習会において、論文で医学統計が適切に行われていないとの指摘があったため、臨床病理への投稿論文審査時に著者へコメントが必要と判断された際には、医学統計専門の編集委員の審査を追加することとした。
- ・学会誌からの転載許諾申請は、学術著作権協会に委託しホームページに案内を掲載した。
- ・メテオの臨床病理閲覧サービスに掲載されていない巻号について、メテオに有料で依頼した。
- ・トピックスの進捗状況の確認と企画の立案を行った。
- ・投稿原稿の検討を行った。

3) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事、古川泰司 委員長）

4月22日に、2020年度社会保険診療報酬改定に関する要望として、学会施行コスト調査に基づく細菌検査の増点要望、アルブミンBCG法の評価等を含む25件を内科系社会保険連合に提出した。5月13日に内保連で提案に関するヒアリングが行われ、総括後、6月29日の第1回内保連社員総会で今期の提案書受領状況が報告され（技術提案総件数473件）、6月12日付で厚労省へ提出され、今後、厚生労働省ヒアリング対応が予定されていることが報告された。

4) 精度管理委員会（宮地勇人 担当理事）

2019年度CAPサーベイ参加・進捗状況、FH9-B2019サーベイのキット取扱説明書における翻訳作業、2018年内に実施した顧客満足度調査の集計を行っていること、「臨床検査室グローバルニュース」発刊等について報告された。

5) 利益相反委員会（古川泰司 担当理事）

体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドライン検討に参加し協議中であること、4月1日付けで日本医療機器産業連合会より透明性ガイドライン改定の通達があり委員間で情報共有したこと、5月30日に日本医学会第5回研究倫理教育研修会が開催され委員長が参加したこと、第66回学術集会（岡山）に倫理および利益相反に関する講演を委員会企画として予定していることが報告された。

6) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事）

第66回学術集会（岡山）、11月23日（土）16:35～18:35に委員会企画シンポジウム「臨床検査のガイドライン2018の概要と活用法」を開催すること、また、委員会開催も検討していることが報告された。

7) 広報委員会（木村 聡 担当理事）

6月22日、京都府立医大で医学生と研修医を対象にRCPC入門編を開催し36名が参加したこと、第66回学術集会（岡山）で医学生によるRCPCを実施予定であること、臨床検査振興協議会で進めているLINE「りんしょう犬さんスタンプ」の進捗状況が報告された。

8) 遺伝子委員会（宮地勇人 担当理事）

がん遺伝子パネル検査の品質・精度の確保に関する基本的考え方（第2.0版）（2019年5月31日）を臨床検査振興協議会の活動に協力して作成し、学会HPに掲載したこと、日本病理学会からの「ゲノム検査全般に関する指針」の共同策定作業の申し出に対して対応開始したこと等が報告された。

9) 医療安全委員会（東條尚子 庶務理事、吉田 博 担当理事欠席のため）

5月29日、日本医療安全調査機構定時社員総会に委員長が出席したこと、6月21日、医療安全全国共同行動2019年度定時社員総会に担当理事が出席したこと、11月24日、第66回学術集会（岡山）において、医療安全講習会（チーム医療委員会との合同開催）「パニック値について」を開催予定であること、また、委員会を開催予定であることが報告された。

10) チーム医療委員会（柴田綾子 担当理事）

「在宅医療における臨床検査医学」と「パニック値」とを柱として活動している。第66回学術集会（岡山）では、11月23日午後に委員会企画「在宅医療と臨床検査」シンポジウム、11月25日午後に医療安全委員会と合同で医療安全講習会を開催すること、パニック値については、医療安全体制の中に位置付けることを考えており、体制づくりのための提言をまとめることが報告された。

11) 臨床検査専門医試験実行委員会（古川泰司 委員長）

2019年8月3日（土）～4日（日）、帝京大学医学部で、2019年度実施第36回臨床検査専門医認定試験を実施予定、初回受験者31名、再受験2名（全科目受験）、再試験3名（科目受験）であることが報告された。

12) 臨床検査管理医試験実行委員会（東田修二 委員長）

2019年8月4日（日）、帝京大学医学部で、2019年度実施第11回臨床検査管理医講習・認定試験を実施予定、受験者は34名であることが報告された。

13) 標準化委員会（古田 耕 担当理事）

2019年5月20日にバルセロナでのIFCC国際甲状腺機能検査標準化委員会で、日本での進捗状況を報告したこと、IFCC本部からは、FT4標準化に向けて世界4か所でネットワークラボを形成中であり、TSHハーモナイゼーションのためヒトサンプル収集予定で日本側にも協力要請があったこと、TSHの日本人共通基準範囲決定、およびIFCC適合検査法検証のための研究を獨協医科大学臨床研究審査委員会に提出し3月4日に承認され、6月に、日本人健常人血清を収集し7月に10社に血清を配布し始めたこと等が報告された。

14) ICD-11和訳タスクフォース（古田 耕 委員長）

2019年5月16日に、厚生労働省国際分類情報管理室宛に、日本臨床検査医学会担当分のICD-11和訳最終案を提出したこと、7月16日に、ICD-11に関する総説を臨床病理誌に投稿したことが報告された。

3. 第66回学術集会報告（岡山2019/11/21(木)～11/24(日)）（通山 薫 会長）

2019年11月21日（木）～11月24日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと、テーマ「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として開催予定である。期間中に企画してい

るプログラム（特別講演、会長講演、共催シンポジウム、シリーズ特別企画、委員会企画、情報交換会）が報告された。

4. 第66回学術集会での検査部長・技師長会議（案）について（村上正巳 総務理事）

第66回学術集会に先立ち、検査部長・技師長会議が次の要領で開催されることが報告された。

日時：2019年11月21日（木）15:00～16:30

会場：岡山コンベンションセンター

テーマ：臨床検査部と第三者評価 ～その評価機関を選んだのは”なぜ”～

講演内容

講演1：ISO15189 認定施設より

講演2：JCI 認定施設より

講演3：日臨技精度保証認定施設より

講演4：第三者評価側の立場から

総合討論

5. 第67回学術集会報告（岩手2020/11/19(木)～11/22(日)、諏訪部章 会長）（東條尚子 庶務理事）

2020年11月19日（木）～22日（日）に、アイーナ（いわて県民情報交流センター：盛岡）において、諏訪部章会長（岩手医大）のもと、テーマ「人工知能（AI）時代の臨床検査」として開催予定であり、AIと臨床検査に関する情報集約と共有化、日本医療情報学会との共催シンポジウム、各科スペシャリストからの提言、一般演題は、他学会企画と重複しないよう原則ポスターとし、その中からトピックとなるテーマを選定してミニシンポジウムを企画すること、学会最終日の午後を盛り上げる企画として医療安全関連の講習会、ICD講習会（ICD制度協議会加盟が必要）、その他の認定講習会等を企画していることが報告された。

6. 第11回特別例会報告（名古屋2019/4/13(土)）（前川真人 特別例会長）（東條尚子 庶務理事）

2019年4月13日（土）に、名古屋国際センター（別棟ホール）で、前川真人特別例会長（浜松医大）のもと、テーマ：「臨床検査医学、次のディメンジョンの幕開け」として、第11回日本臨床検査医学会 特別例会が開催され、154名が参加したこと、そして、会計報告がなされた。

7. 当会からの派遣委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会2019年3月23日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

1) 厚生労働省医政局医事課 タスク・シフティングに関するヒアリング 委員（推薦）

2019/5/28に山田俊幸先生（専門医担当理事）、小谷和彦先生（チーム医療委員長）、田部陽子先生（ワークライフバランス委員長）を推薦。

2) 日本医学会

2019/6/29に、評議員：山田俊幸先生、連絡委員：古川泰司先生、医学用語委員：東條尚子先生、医学用語代委員：谷直人先生を継続で推薦。

3) 日本病理学会ゲノム検査共同指針策定の件

2019/4/16に承諾のうえ窓口担当者として宮地勇人先生を推薦

4) 日本サイトメトリー技術者認定協議会当協議会委員・審議会委員

2019/4/22に田部陽子先生を推薦。

5) 2019年11月9日(土)実施サイトメトリー技術者認定試験の試験問題作成委員

2019/6/25に北中明先生を推薦。

6) 一般社団法人中性脂肪学会：中性脂肪蓄積心筋血管症（TGCV）診断基準検討委員会 委員(外部有識者)として吉田博先生の派遣依頼があり、2019/5/15に承認した。

7) 日本医療安全調査機構 診療行為に関連した死亡の調査分析事業

2019/6/18に統括責任者、事務局担当者、各地区担当者窓口を継続で推薦。

8) 一般社団法人臨床試験医師養成協議会 理事

2019/05/16に東田修二先生を推薦。

8. 理事・監事選挙について（古川泰司 選挙管理委員会 委員長）

選挙対象は、理事：7名、監事：1名であり、選挙日程については、次のとおりであることが報告された。

1) 公示（郵送およびHP掲載、メール配信）：2019年7月16日（火）

2) 立候補届受付期間：2019年8月26日（月）～9月9日（金）

- 4) 選挙投票用紙の発送：2019年9月20日（金）
- 5) 投票締め切り：2019年10月21日（月）15時必着
- 6) 開票：2019年10月21日（月）

9. My Page の進行状況について（東條尚子 庶務理事）

4月23日に、My Page の委託業者選定のためコンペを実施し、ジーイングス株式会社に決定し、今後、My Page のシステム導入に関する打合せをして進めていくことが報告された。

10. WASPaLM と日本臨床検査医学会の契約更新について（2019-2022年度）（村上正巳 WASPaLM 前会長）

2019年度から2022年度まで、WASPaLM と日本臨床検査医学会の契約を延長したことが報告された。

11. JACLaS EXP02019 のブース出展について（矢富裕理事長、木村聡 広報委員会担当理事）

2019年10月3日-5日（木-土）に、パシフィコ横浜で開催される「JACLaS EXPO 2019」でのブース提供（Aタイプ）の申し入れがJACLaS からあり出展希望で回答し、出展の内容としては、基本的には、本年度の日本医学会総会での当会ポスター、第66回学術集会のポスターを中心に広報委員会で検討のうえ対応いただくことが報告された。

12. 関連団体報告

①日本臨床検査同学院（宮地勇人 理事）

臨床検査士資格認定試験、部会活動、遺伝子分析科学認定士試験、公共目的事業追加の申請について報告された。

②臨床検査振興協議会（矢富 裕 理事長）

2020年診療報酬改定に向けた要望事項について検討したことが報告された。

③JCCLS（村上正巳 理事）

公益法人化に向けて、まず、一般社団法人化すること、学術集会、会誌発行、委員会活動等について報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 1. 2019年度学術推進プロジェクト研究採択候補課題について（矢富 裕 理事長）

学術推進化委員会からの2019年度学術推進プロジェクト研究に関する報告書が提示され、応募総数18課題より、次の3課題を学術推進プロジェクト研究課題候補者（研究助成金各100万円）として決定したことが報告され、理事会でも承認された。

- ・課題分類番号(1)病態解析領域における独創的あるいは先進的検査技術の開発として、神力悟氏（熊本大学医学部附属病院中央検査部）
「クローン造血細胞が放出するマイクロパーティクルを介した血管内皮障害の機序解明と、動脈硬化性疾患リスクマーカーの探索」
- ・課題分類番号(2)予防医学関連領域における独創的あるいは先進的検査技術の開発として、岡田光貴氏（京都橋大学健康科学部臨床検査学科）「炎症性腸疾患に対する新規バイオマーカーの探索」
- ・課題分類番号(3)日常検査技術の開発・改善、あるいは問題点の解決に向けての取り組みとして、齋藤良一氏（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）「SSCmec型分類に資するメチシリン耐性表皮ブドウ球菌のゲノミクス研究」

2. 2019年度国際学会奨励賞受賞候補者について（矢富 裕 理事長）

国際委員会からの2019年度国際学会奨励賞受賞候補者について報告書が提示され、5名の応募者より、国際委員会で審査のうえ、次の3名を候補者と決定したことが報告され、理事会でも承認された。

川元康嗣氏（長崎大学）、山中勝正氏（浜松医科大学）、堀内優奈氏（東京医科歯科大学）

3. 各種委員会委員の追加、交代について（矢富 裕 理事長）

次の委員の追加、交代が提示され、承認された。

1) 教育委員会 委員の追加

金子誠先生（東京医科大学）

2) 選挙管理委員会 委員の追加

吉田博先生（東京慈恵会医科大学）

3) 標準化委員会 アドバイザーの交代

標準化委員会：津浦正史氏（東ソー）から浅野洋二氏（アボット）に交代

4. AI を含む臨床検査情報を考える委員会について（矢富 裕 理事長）

前回の理事会から継続審議となっていた本件について、再度、検討がなされ、統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（仮称）として、目的は、AI、IoT、Big データなどについて検討していくこととなり、委員長については、常任理事会で検討して、理事会に提案することとなった。

5. 第 66 回学術集会での表彰ならびに授与式の提案について（矢富 裕 理事長）

第 66 回学術集会通山薫会長より、表彰式・授与式は、例年、総会とあわせて 1 時間枠で設定されているが、観衆が少ないのが気になっていた。そのため、情報交換会に表彰式・授与式を組み入れて、より多くの会員が参加するなかで実施したいと、総会と表彰式・授与式を分けて実施することが提案され、今後、継続ということではなく、第 66 学術集会限定で実施することが承認された。

6. 2020 年度実施第 37 回専門医試験、第 11 回管理医試験 時期、会場について（矢富 裕 理事長）

第 37 回専門医試験、第 12 回管理医試験は、例年であれば 2020 年 8 月初旬となるが、この期間は東京オリンピックと重なり、移動、宿泊が困難になると予想される。そのため、6 月 29 日の臨床検査専門医・管理医審議会において協議し、開催時期と会場については、7 月初旬に東京で、東田修二専門医試験実行委員長中心にご検討いただくこととなったことが報告され、理事会でも承認された。

7. 臨床検査管理医受験料・登録料について（監事からの提案）（矢富 裕 理事長）

2019 年度第 1 回理事会において、監事より、臨床検査管理医受験料と登録料を臨床検査専門医と同額にする提案について、6 月 29 日の臨床検査専門医・管理医審議会にて協議し、管理医より専門医試験コストが、はるかに膨大であるため、現状維持が妥当となったことが報告され、理事会でも承認された。

8. 学会賞の推薦者について（矢富 裕 理事長）

学会賞（若手研究者奨励賞）の応募 1 件の推薦者が 2002-2012 年は会員、2013 年以降は非会員であった。学会賞の応募は、発足当初より 2015 年までは、評議員に推薦依頼がなされ評議員からの推薦のみであり、記入要領にも、「推薦者は日本臨床検査医学会評議員であることを要す。」と記載されていた。しかし、2016 年からは、応募数を増やすための策として自薦も認めることとなり、他薦の場合のみ推薦書を提出いただくようになった。その際に推薦者の資格に関する記載（規定）がなくなった。なお、2018 年までは非会員の推薦者はいなかった。以上を参考に協議し、推薦者は評議員ではなくても少なくとも会員であることが必要となり、学会賞委員会で規定の整備をすることとなった。

9. 基準範囲 WG の答申について（矢富 裕 理事長）

「基準範囲」に関わる用語について、「基準範囲」に関わる用語についての検討ワーキンググループで検討した報告が提示され、{「基準範囲」の意味をはっきりさせ、関連する用語の適切な使用を啓発することに注力し、用語の変更は行なわない} とすることとなった。なお本件については、臨床病理や HP で啓発活動を展開していくべきとなり、本ワーキンググループに依頼する。

10. 臨床検査の意義と専門家が必要な理由の発信について（矢富 裕 理事長、木村 聡 理事）

2018 年 12 月 22 日開催の 2018 年度第 5 回理事会での報告事項、臨床検査専門医制度検討委員会報告で、当学会から国民に向けた「臨床検査の意義と専門家が必要な理由」と「臨床検査専門医の役割」が提案され、その後、メールでも理事に意見を求めて、意見を反映した改訂版が提示された。

若干の文言の訂正、そして、臨床衛生検査技師の役割も追記する提案があり、臨床検査専門医制度検討委員会で、再検討することとなった。

11. パニック値に関する提言について（矢富 裕 理事長）

チーム医療委員会 パニック値検討グループで検討した臨床検査「パニック値」に関する提言書（案）が提示され、特に異論は無く承認され、今後は、第 66 回学術集会でのパニック値運用に関するシンポジウムでの議論を踏まえて、チーム医療委員会で、さらに、提言をブラッシュアップして提案をいただくこととなった。

12. ハンズオンセミナー（東京・近畿）での費用について（矢富 裕 理事長、山田俊幸 担当理事）

ワークライフバランス委員会と教育委員会共催で2019年8月18日（日）に東京大学で、また、今回、あらたに近畿支部主催で2019年9月8日（日）に、ハンズオンセミナーを開催する予定であることが報告され、開催にあたり費用の補助の要望があった。

東京でのハンズオンセミナーは、委員以外4名の交通費・謝金、雑費、飲食代として60,000円、近畿支部でのハンズオンセミナーは、8名の交通費・謝金、雑費、飲食代として100,000円の要望について審議され、将来の臨床検査専門医を増やすために必要であるとして承認された。

13. 臨床検査専門医関連事項（山田俊幸 専門医担当理事）

2020年4月専門研修開始予定のプログラム関連のスケジュールについて報告された。専門研修プログラムの新規と修正の申請は、今年からシステム上で登録し審査することになった。なお、9月末に専攻医登録開始の予定である。

14. 検査項目コード委員会からの検討依頼について（矢富 裕 理事長）

1) 6臨床拡大会議（日本糖尿病学会、日本医療情報学会、日本高血圧学会、日本腎臓学会、日本動脈硬化学会、日本臨床検査医学会）から、某企業の生活習慣病項目セットのアプリの利用についての各学会からの意見を求められたことについて、検査項目コード委員会では、広く使用されることが目的であるので、公共的利用に対しては無償利用可とし、商業的利用に対してはその内容と規模に応じて使用料を請求するのが適切である。という意見であった。理事会でも、検査項目コード委員会の意見が妥当となった。

2) JLACコードの認知度が上がり、付番作業が増大しており、検査項目コード委員会だけでは処理仕切れなくなっている。その対応策として、MEDIS内に付番委員会を設置して、JLAC10/11コードの付番とメンテナンス作業を行う、その際、検査項目コード委員会は、付番原理の規則作成・改訂及び付番されたコードの監修と承認に特化するということについて審議され、承認された。

15. ICD制度協議会への加盟について（第68回学術集会からの要望）（矢富 裕 理事長）

第68回学術集会諏訪部章会長より、第68回学術集会の最終日である2020年11月22日（日）午後、ICD講習会を開催して盛り上げたい、これには、当学会のICD制度協議会の加盟が必須となるため、加盟の要請があった。本件について審議され承認された。

16. 日当について（矢富 裕 理事長、古川泰司 会計理事）

委員当人に要不要を聞くのが多数意見。

金額については、元の2千円か。あるいは、千円、3千円？

日当について、各委員会委員長に意見を募ったところ、復活を希望する意見が多数だった。その結果を受けて、日当は復活することとするが、ただし、委員当人に日当の要不要、他団体との交通費等の重複請求の有無を事前に確認することで承認された。

17. 年会費の値上げについて（矢富 裕 理事長、古川泰司 会計理事）

当学会の財務状況として、直近2~3年は、赤字状況が続いていること、2014年4月1日から消費税が5%から8%に上がったときは会費の値上げは実施しなかったが、この度2019年10月1日から10%に値上げされ、さらに財政状況は悪化すると推測される。そのため、会費の値上げ（1,000円）の実施が提案され、承認された。

18. 日本学術会議からの後援依頼について（矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長）

日本学術会議放射線・臨床検査分科会より、シンポジウム「人工知能時代の放射線画像診断・病理診断と専門医のあり方」への後援依頼について審議され、承認された。

19. その他

・臨床検査管理医規定の一部改定について（矢富 裕 理事長）

臨床検査管理医受験資格のひとつである会員歴について、事務手続き上、不都合があるため、「受験時会員であること」を、「願書請求時に会員であること」と改定することが提案され、承認された。

・2019年度 審議会、理事会日程の確認（東條尚子 庶務理事）

次回以降の2019年度の臨床検査専門医・管理医審議会、理事会、2020年度の第1回理事会と定時社員総会の日程が報告され、確認の依頼がなされた。

第2回審議会：8月31日（土）10：30～12：00、

第3回理事会：10月18日（金）15：00～17：30

臨時社員総会：11月21日（木）16：30～18：00

第3回審議会：12月20日（金）13：00～14：30

第4回理事会：12月20日（金）15：00～17：30

2019年度に係わる定時社員総会および理事会：2020年3月28日（土）

IV 閉会

閉会の言葉があり、2019年度第2回理事会は閉会された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する。

2019年8月8日

一般社団法人 日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 矢 富 裕



副理事長 山 田 俊 幸



監 事 福 武 勝 幸

